

私の仕事(若手職員のレポート)

中日本建設コンサルタント(株) 篠田真由美



■ 1. はじめに

私は、岐阜県に生まれ、岐阜工業高等専門学校に進学しました。高専では建築学を専攻し、意匠設計や構造設計について学びました。高専4年生になると、最も苦手分野ではありましたが、構造解析の研究を行いました。卒業後は、中日本建設コンサルタント(株)に入社し、環境技術本部の建築部署に配属され、現在5年目となりました。

入社してからの仕事は、主に上下水道施設の建築に関わる業務を担当しています。業務内容としては、建築構造物の耐震診断や、補強設計、改修設計、新設設計、ストックマネジメント計画などがあり、最近では建築設備の設計にも力を入れています。また、上下水道施設だけではなく、ごみ焼却施設の煙突や、駅の改修設計など、幅広い分野の業務に携わることができています。

今回「私の仕事」ということで、このような発信の機会を頂きましたので、入社してから最も多く担当している耐震診断業務と、業務以外での活動について紹介させていただきます。

■ 2. 私の仕事

(1) 耐震診断の概要

入社1年目から現在まで、数多くの耐震診断業務を担当しました。

上下水道施設は、安全な飲料水を供給し、使用した水や雨水はきれいにして自然に返す機能をもつ、私たちの生活の中で欠かせない重要な施設です。これらの施設は、地震時にも施設の機能を維持させ、人命を確保する必要があるため、「耐震診断業

務」が必要であり、とても重要な仕事であると感じています。

(2) 耐震診断

耐震診断を行うに当たり、建物の状況を把握するために現地調査を実施します。

現地調査では、建物のひび割れや天井からの漏水等の建物の劣化状況だけでなく、竣工図と比較しながら、現状の部屋の用途や壁の開口状況等を確認します。

劣化状況は建物の耐力に、部屋の用途は建物に作用する床荷重に、壁の開口は構造のモデル化に大きく影響するため耐震診断を行うための重要な調査となります。

構造解析では、これらの結果を踏まえて適切にモデル化を行い、地震時の水平力を与えて建物の耐震性能を確認します。はじめは、構造計算ソフトの使い方や、構造計算書を見ても何が書かれているのか全く分かりませんでした。段々と構造物の特徴を理解できるようになり、構造物の弱点となる原因が何となくではありますが分かってきた様な気がします。

(3) 耐震補強検討

耐震診断の結果、耐震性能が不足している建物は耐震補強方法の検討を行います。構造的に弱い場所を単に補強するだけでなく、施工性や経済性を考慮しながら、補強案を考えていきます。

具体的には、耐震補強工事中も施設機能は維持させる必要があるため、重要な設備が工事の支障となる場所の補強は避けます。また、建物の仕上げにアスベスト含有の可能性がある場合には、適

切に除去する必要があるため、その除去費用を工事費に加算します。他にも、壁の開口を閉塞する場合には、建築基準法の採光・換気・排煙、消防法の有窓・無窓などの法適合の確認をし、補強の可否を判断します。

これらの確認をした上で、全体のバランスを考え、建物を利用する方の使用状況も考慮していくのはとても難しいです。

(4) 耐震診断業務から学んだこと

入社し、右も左も分からずがむしゃらに目の前の耐震診断業務をこなしていきながら、学生時代には最も苦手であった構造に、いつの間にか面白ささえ感じるようになりました。

冒頭でも書かせていただきましたが、現在私は、様々な建築に関わる業務を担当しています。意匠設計をするにあたって、構造を学んだ知識はとも役に立っています。

これまででは、建築を見ることだけが精一杯でしたが、土木や機械、電気の工種との繋がりも意識しながら、ひとつの業務全体を理解することが大切だと感じています。

まだまだ知識は浅いですが、私の中にある知識を出来るだけその先に繋げ、広げていけるよう努力していきたいです。

(5) 建築に関わることの面白さ

日本全国出張に出かけることがあります、その土地の有名な建築を見ることが出張の楽しみでもあります。もちろん名物を食べることも、建築に劣らず楽しみのひとつです。

古い施設には、とても魅力的な建物があります。特に水道施設に多いように感じますが、文化財に登録されている施設もあり、時代背景がよく分かる、こだわりの感じられる建築物があります。

私もいつか地域の方に親しまれる、魅力的な建物を設計してみたいと感じます。まだ私の知らない面白い上下水道施設の建築物を探してみたいです。

■ 3. その他の活動

(1) ワークライフバランス

私は、小学生からバドミントンクラブに所属しており、現在でも地元のクラブチームに所属して休日は趣味程度に体を動かしています。職場以外の、バドミントンを通して出会う仲間との交流は新鮮で、いいリフレッシュの時間となっています。

また、会社の同期や先輩と登山をしたり、冬にはスノーボードを楽しみ、アフターファイブは飲みに行ったりと、充実した日々を過ごしています。

私の仕事のモチベーションは、自分の時間を充実させられることで保っているように感じます。

一昨年、私の趣味を知っていた会社の先輩の誘いもあり、私は中日本バドミントン部を立ち上げることとなりました。初めは、年齢の近い若手社員に声をかけ、段々と輪を広げ、ノー残業デーである水曜日にはバドミントンをして楽しんでいます。



写真-1 中日本バドミントン部集合写真

(2) バドミントンプロジェクト

昨年から、同業コンサルタントの数社に声をかけ、他社合同のバドミントンプロジェクトを開始しました。当初は、弊社を含め3社でしたが、今では8社にまで増え、幅広い年齢層で会社の枠を超えた交流の場となっています。

活動は2ヶ月に1回のペースで行っており、バドミントンで汗を流した後は食事に行きます。

同業他社の技術者と接する機会は貴重で、仕事や働き方の情報交換をすることも出来ています。



写真-2 バドミントンプロジェクト集合写真

回数を重ねていくと、名前も分かるようになり、帰り際には「じゃ、また次回もよろしくね」と声もかけて頂き、とても嬉しく思っています。

まだバドミントンプロジェクトは始めたばかりですので、継続していくことを目標に、これからも楽しい時間を企画できるよう務めていきたいです。

■ 4. おわりに

入社し、様々なことを経験し過ごしてきた中で、周囲の仲間恵まれていると強く感じています。

人間関係は得意な方ではありますが、周囲の手助け無しに今私は笑顔で働くことは出来ていないと思うからです。

仕事をしていく中で当たり前のように辛いことがあり、不安もありますが、周囲に話を聞いてくれる仲間がいて、声をかけてくださる方がたくさんいます。この環境を大切に、感謝を忘れず仕事に取り組んでいきたいです。

上下水道に関わる仕事は、責任と誇りがある仕事で、その分やりがいもあります。私にはまだまだ知識が足りず、ひとつひとつの業務が勉強です。

周囲の人から色々な知識を分けてもらい、一人前の技術者となれるよう、邁進していきます。

また、働き方改革という言葉が多く飛交う中、女性としての、これからの働き方ロールモデルとなれるような技術者となることが、私のもうひとつの目標です。